

神経内科における研修の目標、方略(方法)及び評価

1 独自の研修目標・目的

神経疾患患者さんの病態、診療での基本的な留意点などを理解する。
神経所見を的確にとり、それにより病態を正確に理解し、適切な対応、処置を行なう。

2 神経内科研修の特徴

当院では、脳血管障害の急性期を中心に、頭痛、めまい、てんかん、意識障害などの患者さんを診療する機会が多いが、パーキンソン病や、脊髄小脳変性症などの神経変性疾患も充分経験はできる。

3 研修の目標・目的達成のための方略・方法

研修中は主に、入院患者さん、救急患者様についての診療を行なう。
指導医と一緒に患者さんを診療し、検査・治療の具体的スケジュールや手技を学ぶ。

4 検査

神経所見のととり方、CTやMRI画像の読み方などは、より重点をおいて学ぶ。
また、できるだけ多くの腰椎穿刺を経験する。

5 カンファランス

研修期間中は、可能な限り学会や検討会に参加し、また地方会などでの発表に努める。